

第25回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成26年6月26日（木） 13：00－14：15

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

山本内閣府特命担当大臣（宇宙政策）、阪本内閣府審議官、西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、深井宇宙戦略室参事官

4. 議事次第

(1) 宇宙政策委員会の今後の検討体制について

(2) 国際宇宙ステーション及び国際宇宙探査について

(3) その他

5. 議事

冒頭、山本大臣から以下のような挨拶があった。

山本大臣：

- ・前回（5月26日）の第24回宇宙政策委員会において、「平成27年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」をとりまとめていただいた。同方針は、6月3日付で、私の名前（山本大臣名）で関係大臣に通知した。
- ・一昨日（6月24日）には、「日本再興戦略 改訂2014」（注1）及び「経済財政運営と改革の基本方針2014」（骨太の方針）（注2）が閣議決定され、宇宙に関する記載も盛り込まれた。
- ・本日、新設される「基本政策部会」において、「宇宙を利用した安全保障」や「宇宙インフラの中長期ビジョン」等について御議論頂き、夏頃目途に中間整理、年内目途に取りまとめをお願いしたい。

(1) 宇宙政策委員会の今後の検討体制について

宇宙政策委員会の今後の検討体制について、資料1及び資料2に基づいて事務局から説明を行い、審議を行った。審議の結果、基本政策部会を新設することとなった。主な意見は以下の通り。

注1 日本再興戦略 改訂2014

平成25年6月14日に安倍内閣が閣議決定した成長戦略「日本再興戦略」の改訂版。

参考 URL：<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/honbun2JP.pdf>

○こういう基本政策を議論する部会を置くことは大変重要である。これまでの宇宙政策委員会では突っ込んだ議論というのは余りなくて、予算の関係とか戦略的予算配分方針ということを中心としてやってきたので、このような部会の設置には賛成したい。

基本政策部会で重要な2項目を議論するということが、それが基本政策部会での議論を経て宇宙政策委員会に上がってきて議論できるような仕組みにしていきたい。(松本委員)

○宇宙政策委員会の一番大きな仕事と言ってもいい基本政策に絡む部分であるため、部会委員でなくても情報を共有しながら、という形ですすめていただきたい。(山崎委員)

●そのような運営にさせていただく。(西本宇宙戦略室長)

○前回の宇宙政策委員会で、こういう部会を置くべきだという議論のときに全く同じことを、私も申ししており、基本的に決めるのは宇宙政策委員会であり、部会は議論を取りまとめて宇宙政策委員会に上げるということである。(松井委員長代理)

○宇宙政策委員会を徹底的に議論する場にしたい。そこに向けていろいろな案があるのであればこの案はこういうメリット、デメリットとがあるという形で、この宇宙政策委員会で本格的な議論ができるためのいろんなネタ、戦略の案を基本政策部会で作らせていただいて提案し、宇宙政策委員会で最終的に絞るなら絞っていくという、こういう形にさせていただきたい。

もう一つは、夏をめぐりに中間取りまとめと年内をめぐりに取りまとめということで、やはり来年度の予算に反映できるものは反映していきたいというので、中間取りまとめはあくまで骨子をしっかりとつくって、その後、肉づけしていくという形で優先順位を決めてやらせていただければと考えている。(中須賀委員)

○安全保障と、中長期のビジョンというのを正面から取り組む、こういう部会ができることを心待ちにしていた。基本政策部会での検討結果を宇宙政策委員会で十分時間をかけて議論していくことが非常に大事だと考える。とはいえ、時間がないという状況であるため、やはりでき上がりのイメージとしては、文章としては数ページぐらいのものをしっかりとつくっていくということが出口と考える。(山川委員)

○戦略的予算配分方針のフォローアップのために生かしていくというようなタイミングを頭に置きながらやるべき。(葛西委員長)

注2 「経済財政運営と改革の基本方針2014」(骨太の方針)

いわゆる骨太の方針。平成26年6月24日閣議決定。

参考URL:

http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2014/2014_basicpolicies_01.pdf

(2) 国際宇宙ステーション及び国際宇宙探査について

宇宙開発利用部会 国際宇宙ステーション・国際宇宙探査小委員会における審議状況について、資料3及び参考資料に基づいて文部科学省から報告を行った。

○特に無人月面着陸探査の中で、これまでやられていないことで何をもって存在感を示し、また新しいフロンティアを開くかということと、そして、それが産業振興などにどのように役に立つのか、教えていただきたい。(青木委員)

●今回、月面着陸実証をまず優先していきたいと思っているが、今は従来の月面探査に比べて、非常に高精度に狙った場所に着陸することが技術的には可能である。これはいわゆる表面、荒れた場所とか障害物をよけながら、その状態を把握し、それでコントロールして近づいて着陸するという技術であり、これは自動的に障害を回避する技術である。今、盛んに研究されている自動車の衝突回避とか列車の衝突回避、自動運転につながる重要技術と認識している。そういう意味で、それが非常に産業にとっては発展する技術と認識している。(田中JAXA執行役)

○将来の目標について、国際宇宙探査に取り組む意義に照らして、火星を長期的目標とするとあるが、日本では一体誰が火星を長期的目標とすべきだと主張しているのか、最終的な目標とすべきだと一番主張されているのは誰なのか。教えていただきたい。(山川委員)

●国際宇宙探査小委員会の議論では、ISEF(注3)での国際的な議論を踏まえて、その意義に照らして火星というのを長期的な目標とすることが妥当ではないかという議論を行った。その点について、特段異論や突っ込んだ議論はなかったと理解している。(谷文部科学省宇宙利用推進室長)

○国際宇宙探査小委員会では当面の最終ターゲットとして火星の有人探査とある。一方、JAXAの資料では、ターゲットは月面探査とある。宇宙政策委員会としては、そういうことを聞き、我が国全体の将来のためにどちらがいいかという議論をどこかでやらないといけないと思っている。国益を考えると、どちらが本当に我が国にリターンがあるか。ちなみに、ターゲットが異なっているのはなぜか。(松本委員)

注3 ISEF

国際宇宙探査フォーラムの略称。宇宙探査における国際協力への支持を確立するために開催された閣僚級会合。2016年または2017年に日本にて次回ISEFを開催予定。

参考 URL :

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gi_jyutu/gi_jyutu2/071/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2014/04/24/1344413_01.pdf

- 国際宇宙探査小委員会とJAXAでターゲットが異なっているわけではない。火星はあくまでも将来の目標であり、当面の目標は月探査だというのは共通している。他方で、月ということについては、戦略的な取り組みが必要であり、とりわけアメリカが現政権との関係で、NASAも基本的には月ではなくて小惑星だと言っていて、次の有人拠点をどこにつくるかということについても恐らく議論があり得ると思っている。

今回、JAXAのほうから月面の無人の着陸ミッションというのを提案したい、しかも、それを国際的に提案する形で主導する形でやりたいということについては、今、松本委員おっしゃったような月の重要性ということ踏まえて、そこをいかに実現していくかということの検討の上に出てきている提案と御理解いただきたい。（谷文部科学省宇宙利用推進室長）

- 月に行って、各国が多分将来的には、資源のシェア、共同開発、あるいは競争開発になるかもしれない。そのときに、有人の技術を蓄えるには、どれだけそれに使えるかということが大変重要だろうと思う。文科省及びJAXAの考え方には、ビジョンが少し欠けているなという気がする。我が国が何を指すのか、基地をつくるのか、つukらないのか。月は単なる科学のターゲットだけにするのか。科学のターゲットは重要ではあるがそれだけで終わるのかどうかということをもう少し突っ込んで議論・検討してほしい。（松本委員）

- 松本委員の御意見、コメントはしっかりと委員会のほうに伝える。中間的な取りまとめについては宇宙政策委員会でも大きな立場から、今のようなことを踏まえて御議論もいただきたいと思っている。早く日本としてのいろいろな方向性を十分議論していただきたいと思っている。（磯谷文部科学省大臣官房審議官）

- 文科省のとりまとめと、宇宙政策委員会との関係性はどのようなものか。（松井委員長代理）

- とりまとめ結果については、宇宙政策委員会で御議論をいただきたい。そういった意味での1つの考え方の整理を文部科学省の委員会として提出するのは7月の中間まとめと考えている。今後の話としては、ISEFは2016年か2017年に日本で開催するという方向になっており、それまでの間には、さまざまな国際的な交渉ごともあるので、今後の国際的な交渉の中でのブラッシュアップされていくことが見込まれる。（磯谷文部科学省大臣官房審議官）

- JAXA案の検討はどこでやっているのか。（松井委員長代理）

- JAXAの中のチームを組んで、宇宙研を含め、全英知を集めて検討をしたものをまとめたものがJAXAの案である。（長谷川JAXA理事）

- 利用の拡大について、具体的な見込みを教えてください。1つが民間事業による活用、もう一つが国際的なアジアの国々の中で日本しか持っていないということで、そういった国々からお金を出してでも何かやらせてくれという話があるといった具体的な見込みが出てきているのか、現状を教えてください。（中須賀委員）

●有償利用の制度の活用や、民間企業からの実験希望も出てきており、調整を行っている。大きな規模ではないが、積み重ねでそれなりの規模になるのではないかと考えている。億のオーダーに届けば、ということで頑張っている。（長谷川JAXA理事）

○海外からの受注はどうか。（中須賀委員）

●超小型衛星を「きぼう」から放出する件については、海外からの受注をちょっとずつやらせてもらっており、これも大きな規模ではないが、実費プラス α ぐらいをいただいております、案件を更に増やそうとしている。（長谷川JAXA理事）

○将来の宇宙探査の進め方について、7月中旬の中間取りまとめをここでもまた議論したいということと、次回のISEFをどういう形にするかということについても次回もう少し踏み込んだ議論をしたい。

また、ISSについては、宇宙予算だけではなくて、宇宙から半分、残り半分ほかの研究所から予算をとってくるような、ほかの分野との連携をより緊密に図っていく、そういった動きをとれないものかと思うが、どうか。（山崎委員）

●ISSでの実験やISSの利用について、外部資金を取っていくという取り組みを進めており、外部資金受注高が増えている。我々がお金を出すわけではなく、実験に要する費用は実験者で用意してもらい、ISSに載せるに当たってのいろいろなサポートはJAXAがすると明確に決めており、その内容で進めていくことになっている。うまくいき始めたと思っている。（長谷川JAXA理事）

○部品に関する実証の場としてISSをもっと有効活用したらいいのではないか。もっと大きくアピールしてもよいのではないか。（中須賀委員）